



2014年2月1日 発行

八重山漁協では、あかじん、まくぶを中心に多くの魚種に体長制限が設けられていますが、他の漁協ではどうなのでしょう？実は、八重山を手本に体長制限を始めた漁協もあるのです！今回は、他の漁協での取り組みと、体長制限の基準となるあかじん、まくぶの生活史について紹介します。

沖縄県内での取り組み

県内で最初にあかじん・まくぶの資源管理が始まったのは、名護、国頭漁協で、1kg(約40cm)を基準に小型魚をセリに出さないようになりました。その後、2007年から八重山で体長制限がスタートし、八重山を手本として勝連・石川そして、この1月からは沖縄市が体長制限の取り組みを始めました。

名護漁協
2003年～
あかじん・まくぶ
制限体重: 1 kg

国頭漁協
2003年～
あかじん・まくぶ
制限体重: 1 kg

石川漁協
2013年7月～
あかじん: 35 cm
まくぶ: 35 cm

沖縄市漁協
2014年1月～
あかじん: 35 cm
まくぶ: 30 cm

勝連漁協
2010年頃～
あかじん: 35 cm
まくぶ: 30 cm



あかじん・まくぶの生活史

※参考文献 海老沢(2001) Ebisawa et al.(2010), Yamada et al. (2012)

体長制限の基準となるサイズは、どのように決められているのでしょうか？

あかじん (スジアラ)

0歳 (約32cm) 2歳 (約38cm) 3歳 (約48cm) 5歳 (約60cm) 15歳 (約70cm)

5～7月頃産卵

ほぼ全ての雌が卵を産めるようになる。ごく一部、雄に性転換する個体が出現！

卵を産めるようになってくる (小さなうちはみんな雌)

ほぼ全ての個体が雄に性転換する

最大約70 cm 20歳くらいになる

まくぶ (シロクラベラ)

0歳 まくぶの雌 (約30cm) 2歳 (約60cm) 5歳 (約65cm) 8歳 まくぶの雄 (約70cm)

2月頃産卵し、3～4月頃藻場に稚魚が出現

卵を産めるようになってくる (小さなうちはみんな雌)

雄に性転換する個体が出現！ (八重山は沖縄よりも雄に性転換するのが遅い)

ほぼ全ての個体が雄に性転換する

最大約70 cm 15歳くらいになる

漁獲制限体長は、これまでに研究されてきた上記のようなデータに加え、価値の高くなるサイズなども勘案して設定されています。あかじん、まくぶともに卵を産めるようになるまで2～3年と時間がかかり、大きくなるのもゆっくりです。資源の有効利用のために、体長制限は大切なルールなのです。現在は、どの漁協も自主的な規制として取り組んでいますが、将来的には全県で共通したルールとして浸透していくことが期待されています。

